

トレーラへの思い入れ

トレーラ 業界を元気にするトレーラ部会に

トレーラ部会長 西川 柳 一 郎

(日本トレクス株式会社・取締役社長)



■部会活動を始めて

私が車体工業会のトレーラ部会長に就任させていただいてから早2年の月日が過ぎました。就任当初、車体工業会内でのトレーラ部会の認知度を上げようと思い行動を開始しました。その後すぐにタンクトレーラの首都高速での横転事故、更にコンテナ積みトレーラの横転事故と、トレーラの安全性に関わる事故が続けて発生し、対応策および今後の安全性向上への取り組みについて否応なしに矢面に立つことになりました。ただし、この課題は部会だけで解決できるものではなく、この1年、会長をはじめ車体工業会全体の多大なバックアップをいただき、ようやく安全性向上策の一つとして、ROC（横転抑制装置）普及計画がまとまりつつあります。

■トレーラ大増産

思い起こせば、私の「トレーラへの思い入れ」は15～16年前に遡ります。

当時はトレーラ車両総重量の規制緩和（最大20トン→28トンへ拡大）およびABS装着の義務付け前の駆け込み特需と相まって大増産の時期でした。登録台数で1994年14,600台、1995年13,900台と過去最高でした。

この時期、各社は受注残をフルキャパで1年以上の台数を抱えていたと記憶しています。新米のトレーラ製造課長だった私は、作っても作っても受注残が減ることのない量にあきれるばかりでした。現場の変則交替勤務を一人で対応出来たのもまだ若かったからかなと思います。

1994年春から始まった繁忙期も、ABS装着の義務付けがスタートする1995年9月前には終焉を迎え、思い返せば、忙しくも楽しい時期でした。

この大増産を乗り切り、世の中にたくさんのトレーラを送り出した経験が私の「トレーラへの思い入れ」の強さの源であることに間違いはありません。

■ABSの現状

この時期からトレーラに装着が義務付けされた

ABSの市場装着率は15年経過した今でも52%とのことでした（車体工業会調査）。トラクターへのESC標準化が急速に進んでいますが、その機能発揮のためには、トレーラへのABS装着が必要条件となっています。そのため、今後は市場でのABS装着率向上への取り組みが大変重要であり、具体策については関係者と調整していきたいと考えています。

■トレーラの経年品質確保

トレーラの「製品寿命」について、経年劣化した製品に対する適正な点検・整備方式、部品の保証期間の明確化などをユーザーに周知徹底していく活動を推進するため、本年度より部会内委員会設立を目指し「品質タスクフォース」を新設しました。これによりトレーラの経年品質確保を図っていきたく思っております。またこれらの課題については、車体工業会の他の部会にも共通すると思いますので連携して進めてまいります。

■今後の部会活動

今まで述べたことは業界として推進しないと誰もやってくれません。今までやれなかったのはどうして？という前に、未来につけを回さないようにしなければなりません。

わが国にトレーラのシステムが浸透し始めて約半世紀になります。世の中に送り出したトレーラは「質より量」と言われても決して否めないと思います。しかしこれからはトレーラの新しい技術を含め、安全性、メリット等をPRし、運行環境を改善して新たな需要の喚起を促したいと思います。

今、トレーラ部会では安全性向上以外にもさまざまなテーマに積極的に取り組んでいます。最近報道されている「トレーラの日韓中シームレス輸送」も決して逆風と捉えず、安全で高い品質の日本のトレーラをお客様に提供していくことが必要です。そのためにはシステムを構築し、トレーラ業界に元気を取り戻し、次世代の業界の人たちに引き継げるよう微力ながら尽力していきたいと思っております。